



聖 鐘

日本聖公会東京聖三一教会

〒155-0032 東京都世田谷区代沢 2-10-11
TEL 3421-3646 FAX 3414-9023
URL trinity.web.infoseek.co.jp

牧師 司祭 長谷川正昭

万法・聖霊・二元の氣

司祭ヨナタン 長谷川正昭

道元の『正法眼蔵』のなかに有名な言葉があります。

「仏道を習うというは自己を習うなり。自己を習うというは自己を忘るるなり。自己を忘るるというは万法に証しせらるるなり。」

仏道という言葉のかわりにキリスト教をあてはめても何ら不都合のない言葉です。すると「万法」というのは聖霊に相当することがわかります。万法に証しされたときに初めて仏道を得、仏の子になることができると言っているのですから、これは聖パウロが聖霊に証しされたときに神の子となることができると言っているのと同じです。(ロマ8:16)

聖霊は、あるかなきかの虚空を漂う素粒子のごとく、とらえどころがなく、しかも「風は思いのままに吹く、どこから来て、どこへ行くのか知らない」と福音記者ヨハネが言っているのとおりです。かつて、ウインチェスター教区の

J・V・テイラー主教は聖霊について次のように語りました。

「或る委員会の事務処理が、神の御霊の到来をまだ待機中であるという理由で延期されたという事例を最近聞いたことがない。財源がないから止めにしたという計画はいくつも知っているが、聖霊の賜物に欠けるから止めにしたというのはいかならない」(『仲介者なる神』)

私たちは人間的な資源が適切であれば、霊的な面は自明のこととして問わない傾向があるが、宣教ということを考えると、聖霊なしではどこへも行かなく、聖霊なしではどこへも行き着くことはできないのです。私たちの中で名もみせず働く神、真只中であつて、しかも超え出ている方について語り始めなければならぬのはまさにこの点においてなのです。

中国のタオイズム(道教)では「元の氣」という言葉があります。万物の根源にして、人間の活動力の源泉を指しています。この「

元の氣が聖霊に相当する言葉です。二元の氣はいくら浪費しても涸れたり、尽きたり、減ることはなく無尽蔵に存在しています。

むしろ、使えば使うほど、流出すればするほど溢れるばかりに増え拡がり、泉のようにこんこんと湧き出して絶えることなく、この世界と宇宙のすみずみまで、及んでいるのです。最近の量子物理学ではこれをゼロ・ポイント・フィールド(真空のエネルギー)と呼んでいます。現代物理学とタオイズムの関係はもともとエキサイティングな研究テーマの一つです。21世紀中に科学と宗教は融合するという学者もいるくらいです。この三元の氣は、同時に大変冷厳なことに人間にとついてもよきものばかりをもたらすのではないことに留意しなければなりません。聖書にも次のようにあります。「持っている人はさらに与えられ持つていない人は持つていないものまで取り上げられる」(ルカ8:18)これは格差社会を預言したのではなく、きわめて公平なエネルギー循環という世界と宇宙の仕組みについての言葉なのです。

次号から誌面に掲示板を

働きグループのお知らせ掲示板を毎号誌面に掲載します。今まで働きグループからのお知らせ等を教会の皆さんに知ってもらう場があまりありませんでした。各グループからのお願いや、現在取り組んでいる事、又これらの予定などの情報を詳しく掲載して行きます。いろいろと連絡の場になるような掲示板を作っていく予定です。

平和のコンサート第10回

6月28日(日)第10回平和のためのコンサートが開かれました。お話しは多磨全生園から藤崎陸安さん(ハンセン病協議会役員)をお招きし、日本のハンセン病患者に対する歴史などを話されました。お話の他に朗読と聖歌隊による演奏もありました。終了後はホールで藤崎さんを囲み参加者と一緒にお茶の会を持ちました。

メンテナンスの係から

7月21日から10日間の予定で女性用トイレの改装工事をします。今まで殆ど手を入れてこなかったので大きな改修となり、水回りはすべて交換となり、換気も能力を上げた器具になります。工事期間中はご不便をおかけしますがご協力をお願いいたします。

入り口に新たに軒を作ります。雨降りの時の出入りが改善されます。電気関係の工事も数カ所あります。まだ工事日程は決まっていますが、以前より指摘されているステンドグラス裏と牧師執務室裏の分電盤の改修。ホール西側壁面の照明器具の交換等。尚、現在メンテナンスで検討されている件として礼拝堂の床暖房を今後どうするかです。

牧師動静

- 3月
 - 9日(月) 芝公園再開発教区側委員と企画室合同会議
 - 13日(金) 聖書を読む夕
 - 14日(土) 山手グループ大斎静想会(ナザレ修女会)
 - 15日(日) 子供と捧げる聖餐式、大斎講話(ベテロ神父)
 - 20日(金) 第108定期教区会(聖アンデレ主教聖聖堂、およびホール)
 - 21日(土) 礼拝担当者会
 - 22日(日) 大斎証し(秋山静一兄)
 - 26日(木) 山手グループ牧師協議会(聖愛教会)
 - 28日(土) 柴田早智子姉信準備
 - 29日(日) 大斎講話(長谷川司祭)、故山下昇兄記念式
 - 31日(火) 芝公園再開発委員会(教区)
- 4月
 - 5日(日) 棕櫚の祝別式
 - 9日(木) 司祭の約束の更新、聖油の祝別(教区)聖木曜日聖餐式
 - 11日(土) 宣教委員会、イースターヴィジル礼拝
 - 14日(火) 山手グループ教役者歓送迎会
 - 15日(水) 芝公園再開発教区側小委員会
 - 18日(土) 故鈴木宏尚神学生5周年レクイエム
 - 22日(水) 鶴牧集会
 - 25日(土) 故田瀬幸男兄埋葬式
 - 26日(日) 千住キリスト教会教会委員会
 - 29日(水) グリーンデーピクニック(聖公会神学院)
- 5月
 - 7日(木) 山手教役者協議会
 - 9日(土) 庭プロジェクト、総務・事務スタッフ合同会
 - 15日(金) 児玉初枝姉見舞い(杏林大学病院)
 - 18日(月) 佐藤信康司祭通夜式(聖パウロ教会)
 - 19日(火) 佐藤信康司祭葬送式
 - 21日(木) 鶴牧集会
 - 23日(土) 礼拝勉強会
 - 27日(水) 芝公園将来計画教区側小委員会
 - 31日(日) 宣教150周年主教会教書発布(説教朗読)
- 6月
 - 1日(月) 原活葉姉見舞い
 - 7日(日) 働きグループフリーダー会、久野和彦兄逝去祈禱
 - 9日(火) 村井みどり姉(聖十字教会)通夜式
 - 10日(水) 久野和彦兄通夜式
 - 11日(木) 久野和彦兄葬送式
 - 13日(土) 故生川又平兄埋葬式(青山墓地)

礼拝集会案内	
主日礼拝	聖餐式
日曜日	午後八時二十分
	午後十時三十分
夕の礼拝	午後四時
週日の礼拝	聖餐式
木曜日	午前十時三十分
教会暦の定める祝日	午前十一時三十分
聖餐式	午前九時三十分
ぶどうの木(こどもの礼拝)	午前九時三十分
日曜日	午前九時三十分
集会	毎月第一日曜日
壮年会	毎月第一日曜日
BSA例会	適宜
中H I G H 倶楽部	毎月最終日曜日
聖書を読む会	適宜
聖書を読む夕べ	午前十一時三十分
火曜日	午後七時
代沢こども文庫	午後七時
第二金曜日	午後七時
第二第三水曜日	午後二時

聖公会の過去と未来(その2)

司祭 西原廉太

今回のランベス会議は、860人の主教にカナタベリー大主教から招待状が送られました。しかし、二人の主教さんには最初から招待がありませんでした。一人はジョン・ロビンソン主教という方でゲイであることを公けにされている方、もう一人はミンス主教という方で、東南アジアで按手され、管区を越えてアメリカに派遣され、同性愛に反対するグループを組織されています。このお二人には始めから招待状が送られませんでした。しかし、招待を受けた主教のなかで200名の主教が参加しませんでした。個人的事情で不参加の主教が約50名、組織的なボイコットはナイジェリア聖公会とウガンダ聖公会だけです。両方あわせて教区が130以上あります。

アメリカ聖公会に反対していたタンザニアとかケニアの主教は皆こられました。巷では世界の聖公会が分裂するのではないかと言われていますが今年の2月に行われた首座主教会議はナイジェリアやウガンダの主教たちも参加して、前向きに折り合う会

議だったそうですから、分裂するようなことはないだろうと思っ

今回のランベス会議では決議は一切しませんでした。五十嵐主教が言われたように「聖霊に満たされた会議」で、とくに聖書研究はそうでした。98年のランベスの時は私は36歳でしたが、同時通訳をしていました、シヨックを受けて傷を負ったことがあります。東南アジアの主教が「同性愛者は犬か猫だ」と言ったり、同性愛を支持する主教も反対派を「馬鹿」と言ったり、そういう罵りあい私は通訳ですからそのまま訳して伝えなければならぬ。それはトラウマになりますね。途中で尋麻疹がでて、他の通訳に代わってもらいました。

前回の経緯がありますからメディアも沢山集まって、すごい緊張感がありました。しかし、ローワン・ウィリアムス大主教が3日間、カナタベリーを貸切にして、黙想を持たれました。折角、観光で来たお客には申し訳なかったのですが、これは素晴らしいです。そして、その後も決議は切しないで、祈りと聖書研究と小グループでの分かち合いだけをしました。スーダンがダルフールというところで非常に悲惨な紛争があ

りまして、虐殺が起こりました。スーダンの主教は弟が殺されたことを淡々と報告され、でも最後にわーと泣かれました。命が大事故だ、と。紛争の中で言語に絶する悲しみがあつた。しかし、そのような絶望の中にあつて、教会は確かに希望を語ってきたか、ということについて語られたのです。

また、アメリカ聖公会のチルトンという女性主教は「証しをさせてください」と言って、御自身がアルコール依存症に苦しまれて、それを克服されて来たことを証ししました。教会というのはそのように苦しんだり悩んでいる人たちを励ます交わりでなければならぬことを目に涙を溢れさせながら語られた。印象的だったのはタンザニアの主教がチルトン主教の手をとって「みんなチルトンのために祈ろう」と言って、一緒に手を合わせて祈りました。タンザニア聖公会とアメリカ聖公会は犬猿の仲なんです。同性愛をめぐってですね。しかし、そうやって顔と顔を合わせて、祈り合い、涙し、福音の喜びを分かち合う交わりだったな、と思います。それはカナタベリー大主教の思いでもあるんですね。

一昨年の3月、南アフリカのヨハネスブルグで世界聖公会の宣教

会議が開かれました。世界各地の紛争や貧困、暴力、環境問題などの解決のために世界の聖公会は分裂している場合ではない、そういうことを確認した重要な会議なんです。その会議の中で、ローワン・ウィリアムス大主教が説教されました。要約して申し上げますと、「聖歌隊の指揮者にとつての最も重要な任務というのは大声を出して歌う人や、音を外している人に注意を与えることではない。むしろ声の出ている人や、聞き取れないほどの小さな声の人の存在を敏感に感じ取ることなのだ。そしてその人たちに、あなたの声が開かえなければ、この聖歌隊はむしろ無い方がよいのだ、と語りかけることなのだ」

この世界や社会の片隅で、さまざまな困難や悲しみや、あるいは孤独の中で声を出すことができない方がいる。かすかな声で癒しや救いを求めている人がおられる。そういった人々の存在を私たちの教会が聴き取ることができなければ、教会はもはや無意味だ。大主教はそういうことを言いたかったのだと思います。

(終)

※講話のテープ起こしは高橋牧さん

まじわり

私たち日本と日本人のこと
もっと知りたいのです

今年3月から韓国の3人の青年が私たちと礼拝を共にし、交わりを深めつつあります。3人の共通の思いは、日本語を学び、日本と日本人のこともっと知りたいという願いです。教会の皆さん、彼らと言葉を交わし、相互理解を深めましょう。

◆許在熏(ホジエフン)さん



ウルサン市出身

日本語習得のためこの3月から在留している。クリスチャンホーム育ちで、蔚山聖バルナバ教会で幼児洗礼を受けた。日本語を学びながら日本の国を理解したいという。「10数年前、蔚山教会に東京聖三教会の信徒を迎えたとき、いつの日か日本に留学したら三教会に通

ら今やその願いが適ったわけだ。現在、まだ日本語の聞き取り、会話にやささか不自由している段階だが、礼拝のやり方は韓国とほぼ同じなので違和感はないという。「外国人の私たちに教会の皆さんの濃やかな気遣いをいただき感謝しています。高齢者の方々の信仰の深さが印象的で、とても素晴らしいと感じています」 将来は彼自身の専門であるIT(情報技術)関係の仕事に就くのが目標。

◆呉泰鉉(オテヒョン)さん



ソウル市出身

クリスチャンホーム育ちでカトリック教会で幼児洗礼を受けた。日本語習得のため、この3月に来日した。同じ寮生活をしている許さんに誘われて三教会に通うようになった。最初、プロテスタントとカトリックは全く違うものと思いついていたが、三教会の雰囲気はほとんど違和感はないという。もっと

も礼拝の中で司祭が信徒一人ひとりと平和の挨拶の握手を求められたときは、気恥かしさとともに温かさもあつて戸惑ったそうだ。今のところ言葉の問題で思い通りのコミュニケーションがとれないこともあり、いささか孤立感を覚えているのも事実。「教会の皆さんが私たちにとても親切にして下さるので、親しみを感じています。この温かさになんとか応えることが出来たらと思っています」 彼自身の将来のことはこれから考えたいという。

◆趙庸鎮(チョウヨンジン)さん



ウルサン市出身

クリスチャンホーム育ち。日本語学校に通う目的でこの3月来日した。前出の許さんと同様、10年前に東京聖三教会の日韓交流キャンプに参加したときに、日本に留学したら三教会に行くことを考えていたという。「教会の雰囲気は日本の教会の方がなんとなく明るい感じ」だという。出来れば三教会の

青年グループとの交わりを深めたいと思っ

★編集子の回想「チョウさんの祖父イ・ミンヒョンさんは、現在、独力で創設した西蔚山聖アンナ教会の司祭として牧会に献身中。同司祭は、三教会と姉妹教会の蔚山バルナバ教会の信徒時代に三教会を訪問されたこともあり知己も多い。編集子も1990年にソウルで開催された大韓聖公会宣教二〇〇年記念礼拝参加のため訪韓した際、イ司祭と語り合った次の言葉(流暢な日本語)は今でも脳裏に深く刻み込まれている。「私はかつて日本人が嫌いでした。しかし三教会の方々と交流を重ねる中で、本当に日本人が好きになりました」

編集子の訪韓備忘録にも次の言葉が記されている。「韓国日本の両国民が真の友好関係を実感するまでには恐らく今後、30年はかかるものと考えているが、友好関係を少しでも促進するためには、神によって結ばれた人間同士の関係強化が最も有効だろう。これまでのきずなをさらに大きく、広がりを持つような地道な努力が必要であることを、今度の韓国訪問で学んだ」

(以上、編集子記)



マナーかファッションか

寺内安彦

一般に良く知られているキリスト教の祭日はクリスマスと復活祭です。中でも復活祭は私達にとって最も大切な祭日です。これらの祭日に、私の出身教会である栃木市の聖アルバン教会では、男は礼服に身を正し、婦人達は紋付の羽織を着、子供達はよそ行きを着て礼拝に参加していました。でも半世紀以上前の話です。私は1950年代の前半をアメリカ東部で過ごしました。日曜日は特別の日でした。店舗は殆どが休み、道で出会う人達も大人は勿論、男の子はジャケットに長ズボン、中にはネクタイを締めて、いわゆるサンデーのスーツに身を纏い、女の子はよそ行きのドレスを着て教会に行きました。然し、こんな風景も古きよき時代になりつつあるようです。ロスに居る友人が、「何ぼなんでも教会にジーンズを穿いてくるのはけしからん」と嘆いていましたからね。

今、三教会の若い人の間でこと服装に関しては、クリスマスも復活祭も普段の日と何ら変わらないのです。クリスマスイブの礼拝は夜の歌舞伎町か渋谷から抜け出して来たのかと見紛う姿の若者で溢れ、復活祭のハイマスにルンペンさながらのなりで出席している姿を

見るにつけ、私は「これはマナーの問題を通り越して、冒瀆の域に達している」とすら思ってしまうのです。

こうした傾向に対して、私は常々、神様の前に出て、食事(聖餐式を共にするのに何と不遜な態度であるか、とそのマナーの悪さに意気消沈し、更には教会が衰退するのをもさああらんと嘆いていました。

と或る日、テレビで若手人気俳優の瑛太(篤姫の相手役)がゲストとしてインタヴューを受けている番組を見ていました。何とあの瑛太が公共の場であるテレビにルンペン姿に鳥の巣のような乱れ髪で現れたのです。その上、少しも悪びれる様子も無く著名な司会者と受け答えをしているではありませんか。一方の著名司会者も、瑛太の見苦しい格好を少しも意に介していませんでした。私はハタと気が付きました。このルンペン・ルックは今のファッションなんだ。マナーや礼儀とは無関係なんだと。そういえば、昨夏電車の中で私が非常に不快に思った女性も、人前でお臍を出して平気でした。これもお行儀が悪いのでは無く、彼女にとっては夏のファッションだったのかと。

遂にファッションがマナーの領域を侵害する時代が来た。私のような価値観は最早通用しなくなりました。時代遅れか。然し、他方で、就カッツにはリクルートルックに身を正し、婚カツではブランド物で身を固

め、会社では身嗜みに気を配り、人に物を頼む時は身繕いをする。何の事は無い、彼等はちゃんとTPOを使い分けているではないか。教会の外では彼等のファッションは決してマナー、いや、作法の領域を侵害してはいないのだ。なのに、何故教会では、主日に、クリスマスで、復活祭にTPOの作法が無視されるのだろうか。彼等は西洋起源のキリスト教はマナーで律し、日本の風習は作法で律している。前者は今様ファッションに侵害され、後者は未だ不可侵の領域に置かれているとしか思えない。

世相に現れる宗教観

菊池 英男

人間は人を超えた目に見えない偉大な存在に依存して生きてきたように思われます。これは信仰とか信心、宗教、神仏といった言葉で表現しています。人はその目に見えないものがどこか高い所に存在していると信じてきたようです。例えば西欧では多くの古い教会は高い山や丘の上に建てられ、日本を含む東アジアでも比叡山・延暦寺とか福井・永平寺などの古い寺院を例に挙げられます。そして面白いことに平地に建てられて

いるお寺でも必ず「何々山何々寺」と命名されています。山を聖地と畏敬する精神文化は、洋の東西を問わず共通しているのでしょうか。

◆さて話は変わりますが、昨年暮れの某新聞の投書欄に、77歳の女性が「困窮者をお寺が救えぬか」と題する一文が掲載されたのをきっかけに、2、3週間の間に今回の世界的な経済恐慌のために失業した人々への思いを綴った関連投書4本が掲載され、大変興味深く読みました。

最初の女性の投書の内容はこうです。「ニューヨークの教会はホームレスに率先して食事を提供しているのに、日本のお寺はそんなことをしたという話を聞いたことがない」

するとある僧侶から「仏教も一切衆生の救いのために身を粉にして働いている僧侶が多い」と反論が。さらに69歳の会社員から「神社やお寺は困窮者傍観の立場」の投書が。そして北海道在住の78歳の女性は「困窮者の救済は本来、国がやるべきもの。弱者救済を宗教団体がやるべきだとの考えは改めるべきだ」と。

◆私はこれらの投書を読んで二つのことを考えさせられました。一つは日本人の宗教観の面白さと、もう一つはキリスト教の素晴らしさです。どうも「一般の日本人は、宗教というものを「死後」とか「来世」に

しております。なお、前述の投書のコピーが手元にありますので興味のある方はお申し出ください。

無聊か二つ年寄りのつぶやき

松田 義夫

◆東京教区はどうも危ない方向に向かっているなあーとつぶやくことが多くなった。政治好きな人たちが、教区をつの色に染め上げようとすると懸念は、年寄りの取り越し苦労だろうか。宗教が政治問題にかかわることの弊害のケーススタディーは歴史の中から容易に探すことが出来る。現世でもどこかの国で行われているではないか。宗教が政治に深く関与したり、権力を握ると、神の名をもとに原理主義、全体主義、そして時にはアナキズムの方向に走る必然性があると思うのだが。近代国家が政教分離の理念を標榜しているのは故なしとしない。イエスも時の権力者に抵抗したのではないかと、教会が政治に関与することも承知しているが、この理屈は時代錯誤思考ではないか、とぶつぶつつぶやいている

◆「教育基本法の改正に反対する決議」(管区)「日の丸・君が代強制の即時中止を求める声明」(東京教区)。最近の信徒総会で

結び付けて考える傾向が強いようです。子供の親は、七五三のお祝いに神社参りをします。信者でなくても教会や神社で結婚式、葬式はお寺でというパターンがごく自然に出来上がっているようです。仏式の結婚式もあるようですが、お目にかかったことはありません。ちなみに神道は元来、皇室中心の民族的祖先崇拜の風習と考えており、宗教の一つと考えるのは無理があるようです。

◆キリスト教は人間の出生から死に至るまで何らかの形で人生の節々を覚える式というか、イベントがあります。キリスト教文化圏の西欧の国々は、その昔、盛んにアフリカ、アジアへ侵攻して世界各地に領土を拡張、植民地化しました。同時に教会、学校、病院を建設したことも事実です。つまり現地の人々の生命、文化を尊重しました。ここにキリスト教の世界観、価値観を見ることが出来ます。キリスト教は死後の復活と永遠の命という、他宗教にはない神学的な理念を説いています。キリスト教は生きている者を救うことが使命であることは明確です。

◆前述の投書にあったように、NYの教会がホームレスに給食している話は、東京教区でも幾つかの教会が平素から行っています。キリスト教がこのような宗教であることは喜びであり、神が私にこの信仰を与えて下さった恵みに感謝致

◆今号は期せずして年配の方達から寄稿して頂きました。次号は是非若い年代の方達からの寄稿をお待ちしています。

朝日歌壇に入選された川崎和香葉さんの短歌を紹介します。

受験生じゅけんせいだよジュケンセイJの響きが不安を煽る

悲しくて泣く訳じゃない透明なフォルテツシモが目につみただけ

訃報

ヤコブ久野和彦兄
6月7日に逝去 享年63歳

教会委員会議事録抜粋2009年3月~5月

<3月>

- ・ガザ地区人道支援金を送金する。
- ・被災した「メルヘンコイノニア」支援金を送金する。
- ・バザー委員長。東理夫兄が立候補し承認された。
- ・信徒奉事者。本多峰子姉に依頼し承諾された。
- ・聖堂の椅子の間隔を一定にすることをメンテナンス担当が対策を考える。
- ・イースターの卵。昨年同様に有志が自宅で茹で、ラッピングして持ち寄る。
- ・礼拝担当報告。イースター礼拝のハレルヤコーラスは教会外の方へ参加を呼びかける。
- ・宣教委員会報告。インターネット・ホームページの充実を化るべく始動。「言いつばなし懇談会」「働きグループチーフの話し合い」等、横のつながりを作ることを企画する。
- ・メンテナンス報告。ホールの天井、梁の内側を塗り替えることに。

<4月>

- ・主教巡回日は12月25日の降誕日に決定。
- ・長谷川司祭は管理司祭として千住キリスト教会の教会委員会に出席する。
- ・受聖餐者総会の各働きグループの文書報告を分かち合い、今後の教会活動を一層活性化することを目的に「働きグループ・リーダー会」を開催する。
- ・秋山俊哉兄(東京聖十字教会員)5月より第1主日ハイマス礼拝祭壇奉仕研修を開始。
- ・総務報告。宣教150年「みんな集まれ」写真展が9月のカンタベリー大主教講演会場(立教大学)にて開催。聖三一教会の復活日集合写真を管区に送付する。
- ・会計報告。1階ホール塗装終了。森田・千村兄に感謝の意を表明。多目的高所移動作業台制作費を承認した。

<5月>

- ・宣教150周年記念礼拝(9月23日)東京カテドラル聖マリア大聖堂。希望者全員が出席で

- きるか現段階では不明。前夜祭懇親会(9月22日)立教大学。記念行事関係の連絡担当委員:加藤啓子氏、砂田郁郎氏、千村雅信氏。
- ・信徒からの提案事項受付。当面は、ご本人が直接司祭に伝えていただく。
- ・働きグループ・リーダー会を6月7日に開催する。
- ・地域集会について。第1回の世田谷地区を開催の予定。聖書や信仰についての学びを通しての交流。
- ・総務担当と事務スタッフが懇談し、それぞれの役割分担を確認した。
- ・礼拝奉仕者研修会が10月3日(土)に当教会を会場に行われる。
- ・女子トイレの改修工事について。臭い解消についても相談、支出できる範囲での快適化の方向で改めて見積りを取る。
- ・スピーカーの入れ替え、およびオルガン位置と玄関のスピーカー増設が完了した。
- ・信仰と生活委員会報告。COA世代(中高生)支援部会を置いて、担当司祭が任命される。
- ・会計報告。全体的に収入は低調。
- ・こどもとともにささげる礼拝。こどもの数が少なかった。活性化の方法を考えていきたい。
- ・聖歌隊の合宿。7月19、20日に実施の予定

信徒動静

堅信	4月 5日 マグダラのマリア柴田早智子姉 教区合同堅信式(アンデレ)
入籍	5月16日 ベロニカ久慈優理(まさり)姉 阿佐ヶ谷聖ペテロ教会より
転籍	5月23日 ソラナ田中弘子姉 カトリック聖イグナチオ教会
逝去	6月 7日 ヤコブ久野和彦兄
転居	エリザベス秋山享子姉 豊島区千早2-16-16-208 ポーリン五十嵐美奈姉 練馬区羽沢3-34-12-301 リベカ園田雅子姉 大阪市北区長柄中1-7-3-205
金婚式	5月17日・アンデレ田島信次兄・ヨハンナ昌子姉

今年のバザーこそ

バザー委員長 東理夫
副委員長 高橋牧

七月に入つて、バザーへの大いなる
助走が始まりました。

昨年未から、バザーに対する疲労感のようなものを口になさるかたが、それも案外の数のかたがいらつしやることを、耳にすることが多くなりまりました。そこで今年のバザー委員二人は、皆さんのバザーに対する本気の気持ちをうかがいたい、アンケートをお願いしました。アンケートの結果、大変な現状を認識しつつも、やはりバザーには教会内、外の絆を深め、皆がひとつになつて働ける大切な行事、とほとんどの方が言つてくださいました。そのことに私たちは励まされ、皆さんの苦勞を少しでも取り除けるようなバザーを実現したいという思いをあらたにしました。たくさんのお答えをいただいたこと、あらためて心から感謝いたしております。

たいと思います。誰もが辛い思いをしない、苦しい作業や嫌な気持ちにならない、みんなが楽しく、明るく、生き生きできるバザーを心がけていきたいと思ひます。

まずは、バザーに二人でも多くのかたに参加していただきたい。バザー当日は予定があつて来られない、というかたも、また、バザーではやることか決まつているので、とお考えのかたにも、バザーはその当日だけのことではなく、バザーまでの準備期間もまた大切なバザーのひとつなのだと思つていただきたいのです。



皆さんと一緒に、楽しいバザーを迎えられるようにするにはどうしたらいいのか。それが今年のバザー委員に課せられたテーマだと思つています。バザーに関するどんなご意見、どんな注文、どんな提案もうかがう気持ちでおります。今年のバザー、どうぞよろしくお願ひします。

「リレートーク」

「平和への思い」

小林幸子

今年、日本聖公会宣教150周年を迎え、記念礼拝が行われます。日本聖公会婦人会の歩みを記した「息吹をうけて」という本が1991年に発行されています。編集委員の名前に「矢野喜代子」さんの名前があります。この本を再読して、1954年(昭和29年)の記事に驚きました。この年3月に第5福竜丸が、ビキニ環礁近くでアメリカの水爆実験に遭遇し、被爆して死者が出たのです。

日本聖公会婦人会(補助会)は、「人類の生存をおびやかすし、世界の平和を破壊する危険のあるものを使用することに憂慮する。」という文書とともに全国から4782人の水爆反対署名を集め、パン・アジアリカン・コンGRESS(全聖公会会議)に提出しています。この会議は同年8月に米国ミネアポリスで開かれていたのですから、その迅速さに驚かされます。

請で「外国人被爆者に対する日本政府の道義的責任を問ひ、治療をすみやかに行ってほしい」旨、政府に対する声明文を承認しています。女性たちの平和への思いが強く伝わってきます。そのエネルギーは今どこに行つたのでしょうか?今年、政府は入管法・入管特例法・住民基本台帳法の改定案を国会に提出し、衆議院で可決しました。

これらの法案は、国連の自由権規約委員会はじめ、諸委員会からの度重なる是正勧告を無視しています。特に、「宗教」など留資格をもつて在留する者(宣教師など)を受け入れてる機関は受け入れの開始と終了だけでなく「その他の受け入れの状況に関する事項」を届け出なければならぬと規定されています。このことは、国家が宗教団体の活動内容に直接介入する事態をも招く恐れがあります。戦前の「宗教団体法」を思いだし恐れを抱きます。外国人も日本人も一人ひとりの人権が守られる社会でありたい。日本でも働く外国人の声を傾ける国であつてほしい。私たちも、それらの人々の痛みを気づいて、迅速に声を挙げたいと思ひます。